# 令和８年
# 川崎町議会定例会１２月会議のご案内

**開 催 日　12 月１日(火)～12 月４日(金)**

**開催場所　川崎町役場　議場(３階)**

**◆第１日目　12 月１日(火)　午前 10 時**

・再　　開

・町長あいさつと行政報告

・委員会報告　所管事務調査報告

**◆第２日目　12 月２日(水)　午前 10 時**

・追 跡 質 問

・一 般 質 問

① 佐藤　昭光 議員　　② 佐藤　清隆 議員　　③ 下斗米　麻子 議員

④ 大本　治久 議員

**◆第３日目　12 月３日(木)　午前 10 時**

・一般質問

⑤ 遠藤　雅信 議員　　⑥ 佐々木　昭雄　議員　　⑦ 的場　要 議員

⑧ 高橋　義則 議員

**◆第４日目　12 月４日(金)　午前 10 時**

・条 例 改 正

・補 正 予 算　令和８年度一般会計補正予算（ほか２件）

・固定資産評価審査委員会委員の選任

・閉　　会

問い合わせ先　議会事務局
（電話 84-2301）

☆議会生中継配信☆

インターネットによるライブ中継が視聴できます。

左のＱＲコードまたは町のホームページよりご覧ください。

傍聴に手続きは必要ありません。どうぞお気軽にお越し下さい。

川崎町議会議長　眞壁　範幸

# 町政を問う８人の議員が質問

## 一般質問要旨

**通告第１号　佐藤　昭光　議員**

**１）期限迫る相続登記**

相続登記の期限が来年３月末に迫っている。令和７年９月に続いて伺う。

① 「７年度課税分で法定相続人が不明なのは 14 件」との答弁だった。その後の状況は。

② 令和７年７月末まで 16 カ月に亡くなった中で、相続登記を済ませたのは 103 人中 39 人と低調だった。その後の進展は。また、令和９年３月末まで３年間の登記完了の目標は。

③ 「相続登記の進展には補助金の検討も必要かと」との答弁だった。実行したのか。

④ 相談会や登記代金の貸し付けなども考えられる、と提案した。検討したのか。

**２）クマとの棲み分けに向けて**

令和８年は山の実りに恵まれてクマの出没が減っているように見受ける。そこで次の点を伺う。

① クマを人里から遠ざける手段として実行した不要果樹伐採事業は柿、クルミ、栗３種で 773 本と予定を上回り、さらに７月から補助事業をしている。この伐採数は町内の何%か、最終的に何%が目標なのか。

② 山の果樹の豊作は、実際の出没に影響し、また、棲み分けに良い影響を及ぼしているのか。実情を伺う。

③ 県は 2024 年度のクマの生息数を 3,140 頭と推測、捕獲予定を 390 頭としている。町内の生息数、捕獲予定数は。

④ 棲み分けの手立てとして、秋田県大仙市では、東北森林管理局が緩衝林帯の下刈りをしている。さらに電気柵や AI、ドローンを活用してクマの出没を防ごうとしている自治体もある。当町でも参考にすべきでは。

**通告第２号　佐藤　清隆　議員**

**１）観光交流施設等に物価高騰対策支援を**

観光交流施設は指定管理制度を採用し、青根地区のじゃっぽの湯とその関連施設、笹谷地区のるぽぽの森を運営している。また、平成 29 年度からは廃校を有効活用し、民間事業者に貸し付けし運営している。

しかし、コロナ禍以降、急激な物価高騰や最低賃金の引き上げなどにより、厳しい運営を余儀なくされている。これまでも様々な支援策を行ってきたが、これからも事業を継続するには新たな支援が必要と思う。そこで次の点を伺う。

① これまで行われた支援は。また現在行われている支援は。

② 物価高騰対策としての支援を行う考えは。

**２）県立高校再編計画に伴う、当町の対応について**

10 月に県立高校再編計画案が県議会の文教警察委員会で示された。その内容は 14 年後の令和 21 年に向けて、今ある学校数、学級数を圏域ごとに高校を配置していくものである。当町が含まれる南部地域では、現在の９校 28 クラスから最終的に４校 15 クラスに再編する案が出ており、今後の中学生卒業見込み数からやむを得ないと思うと同時に、地域から高校がなくなる心配と進学先の選択が狭くなる恐れもあり、難しい問題と受け止めている。そこで次の点を伺う。

① これまで県教育委員会と、どのような話し合いが行われてきたのか。

② この再編計画を受けて当町の考え方、具体的にどのような要請をしていくのか。

**通告第３号　下斗米　麻子　議員**

**１）「あるもの探し」で地域活性化**

当町の地域活性化と住み続けたいまちづくりを進める上では、住民一人ひとりが地域の魅力や歴史・文化を再発見し、郷土への愛着と誇り（シビックプライド）を育むことが重要と考える。

当町ではこれまで、歴史研究サークルによる地域の歴史や魅力を掘り起こし、形にする取り組みが行われている。そこで次の点を伺う。

① 歴史研究サークルの「川崎かるた」に代表される民間等の「あるもの探し」の取り組みに対する評価と、これらを活かしたシビックプライド醸成の推進についての見解は。

② 町民参加による「町の自慢・良いとこ探し」の募集や広報紙等での連載・情報発信に向けた、準備体制や検討状況は。

**２）若い世代への「プレコンセプションケア」の推進**

若い世代が将来のライフプランや心身ともに健康な生活を送るための「プレコンセプションケア（将来の妊娠や健康を見据えたヘルスケア）」の重要性が高まっている。男女問わず若年層からの健康管理やライフプラン形成を支援することは、健康増進や少子化対策、定住促進の観点から欠かせない取り組みである。そこで次の点を伺う。

① 当町における、これまでの取り組みや支援の具体については。

② 今後の実施に向けた取り組みの方向性は。

**通告第４号　大本　治久　議員**

**１）林業の担い手確保・育成について**

当町は町域の約８割を森林が占めている。森林は木材を生産するだけでなく、水源の涵養（かんよう）や災害の防止など、町民の暮らしを支える役割も担っている。今後も森林の適切な管理を続けていくためには、林業従事者の高齢化や担い手不足が課題となるなか、担い手確保と育成が必要である。町内外から林業を志す人材を呼び込むとともに、技術を学ぶ場や指導を担う受け入れ体制を整えることが重要である。そこで次の点を伺う。

① 町内の林業従事者の人数や年齢構成、新規就業者の状況など、担い手の現状は。

② 今後の森林管理を見据え、林業の担い手確保と育成について、どのような方針で取り組んでいく考えか。

**通告第５号　遠藤　雅信　議員**

**１）メッセージで川崎町の魅力をアピール**

当町が持つ歴史、文化、自然、産業、人材などの魅力ある資源を、町外の方に向けて伝える取り組みとして、掲示板に伝えたいメッセージを表示し、人の目に留まりやすい、人が集う場に掲示してはいかがか。

例えば、支倉台の入り口や、みちのく公園休憩所あだこだ、北川原山の工場適地など、「定住するなら水がおいしい川崎町　健康的に過ごせます」「自然災害が少ない川崎町」といった安全面を強調するなど、様々なアピールポイントがあると思う。また、国道 286 号の碁石から赤石までが整備されれば、通勤や通学の環境は改善されるほか、子育て支援事業は特化しているので、仕事と子育てを両立できる環境をアピールすることも考えられる。

当町の特徴・特性を伝える方法を工夫することで、定住促進につながればと考えるが見解を伺う。

**通告第６号　佐々木　昭雄　議員**

**１）企業誘致の進捗と今後の取り組みについて**

当町の取り組みについて次の点を伺う。

①　現在、当町では企業誘致に向けて、具体的にどのような活動を行っているのか。宮城県との連携をどのように進めているのか伺う。

②　企業誘致活動の実績について伺う。直近３年間における企業訪問や誘致に関する相談件数、進出協議の状況などの活動で、どのような成果が得られているのか。

③　企業誘致の目標と今後の戦略について、企業誘致を進めるうえでは活動そのものを目的とするのではなく、町の特性を踏まえ町に適した産業を見極める必要がある。また、どの程度の雇用や地域経済効果を生み出す目標はあるのか。

**通告第７号　的場　要　議員**

**１）鳥獣被害対策と災害協定について**

近年、全国的にクマ出没や人的被害が深刻化し、クマへの警戒と対策が重要な課題となっている。

特に町内には２カ所のゴルフ場があり、広大な敷地と森林に隣接する場所も多いことから、クマが侵入する危険性がある。プレーヤーや従業員の安全確保に早急な対策が必要と考える。

当町には、ゴルフ場利用税交付金が２カ所のゴルフ場から交付されている。また、観光振興や地域経済に果たす役割を考えれば、安全対策に町が一定の支援を行うことは、地域振興の観点からも意義があると考えるがいかがか。

また、全国的に自治体とゴルフ場の災害協定の締結が進んでいる。当町は「災害に強い町」として認識されているが、大規模地震や蔵王噴火等については一定の備えは必要である。ゴルフ場は公共施設と比較して広い敷地・大規模駐車場・クラブハウス・トイレ・温泉施設等があり、避難所をはじめ様々な役割を担える施設である。災害時の協力体制を構築しておくことは、地域全体の防災力を高めるうえで重要だと考えるがいかがか。

**通告第８号　高橋　義則　議員**

**１）川崎町の人口減少対策は**

当町の人口減少は、平成 20 年（2008 年）12 月末と令和７年（2025 年）12 月末を比較すると、減少人数は 2,603 人だった。令和７年の出生者は 18 人で、死亡者は 148 人。また、転入転出者など全ての増減をみると 195 人の減少となる。当町の現状と今後の対策について伺う。

①　データでも明らかだが、この現象に対してどのように思っているのか。

②　子育て世代減少の対策として多くの支援が行われている。一定の成果が見受けられるなか、今後どのような対策を考えているのか。

③　今後の対策は若い町民を地元に残すことが重要である。当町の基幹産業は農業である。この農業人口を増やすことが、地域の活性化と守り手として重要なことと考えるがいかがか。

④　交流人口を増やすことは町のアピールになると思う。例えば、姉妹都市を結び交流を深めることや、温泉や観光、支倉常長の功績などを伝えるなど、多くのアピールがあると思うがいかがか。

**２）スキー場の借地の更新は**

スキー場は借地契約をして事業者が運営しているが、契約期間の終期を迎えるなか、今後の方針を伺う。

現在のスキー場用地は借地し運営している。今後、借地の契約期間の終期がくるが、どのようにする考えか。